

令和6年度当初予算(一般会計)

過去最大の予算規模

244億5,900万円 **全員賛成可決**

前年度比14億3,000万円の増(+6.2%)

令和6年度の主な予算(重点事業)

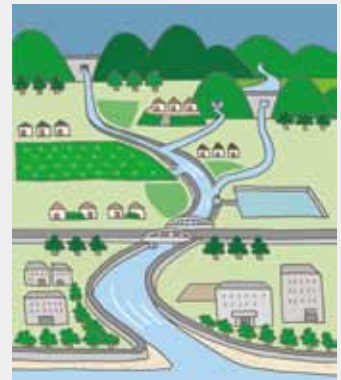


治水・災害対策

1億4,200万円

雨水貯留施設工事、実施設計

築地川排水区域内の公共施設にオンサイト貯留施設*を設置
(道路冠水や床下・床上浸水被害を軽減)



※オンサイト貯留施設とは

その場に降った雨を貯めて、時間をかけて流すことで浸水被害を軽減させる施設(下水道課への聞き取りによる)



物価高騰対策

6,900万円

プレミアム商品券発行事業

市内店舗での消費を喚起し、小規模事業者を支援
(発行額3億円・プレミアム率30%)

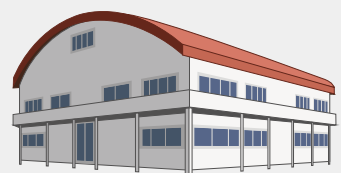


公共施設の更新

6,736万円

新体育館建設事業

新体育館の敷地全体の基本設計や地質調査



予算審査特別委員会を設置し、3月1日、4日、5日、6日の4日間審査しました。委員会での議論をふまえ、執行にあたっては、次の4点に留意するよう意見を付けました。

予算審査特別委員会からの意見

城山公園整備について

- 城山公園の管理については、適正な費用負担を確認すること。
- 総合公園として運営体制をしっかりと構築していくこと。特に、ボートやバーベキュー広場の利用については、今まで以上に安全対策を強化したうえで運営すること。



広報配布等業務委託料について

- 区長会との合意事項に沿って、行政区との契約を進めていき、令和7年度に持ち越しがないように、令和6年度はしっかりと整理すること。



重層的支援体制整備事業について

各課の相談事業や生活支援体制など従来の取り組みがどのように進化しているのか、事業の流れや全体像が見えにくくなっている。

- コミュニティ推進課、子育て支援課、長寿支援課、福祉課など関係機関が情報を共有し連携して計画的に事業を進めていくこと。



オンサイト貯留施設について

- 予算の無駄がないよう効率的に実施していくこと。
- 議会に対して必要な報告は速やかに行うこと。
- 学校施設においては学習活動に支障がないように十分配慮されること。



▲たなばた地域運動広場

あらゆるハラスメントをなくし職員も議員も快適に働くために

議会ハラスメント対策特別委員会の動き

議会として指針を作成することを確認

令和5年12月議会において設置された「議会ハラスメント対策特別委員会」は、3月までに計4回の会議を開き、ハラスメント防止のための方策と事案が発生したときの解決法について協議を重ねてきました。

これまでの論点整理

- ① 議会は防止と解決のための指針を作成する。
- ② 職員の相談窓口、第3者委員会については、市の条例で対応できないか市ハラスメント対策検討委員会と調整する。
- ③ 議員同士、議員と市民間のハラスメントは県のハラスメント根拠条例で対応する。

市ハラスメント対策検討委員会と意見交換

これまでの協議を踏まえ、令和6年3月21日には、同じく令和5年12月に設置された市のハラスメント対策検討委員会（大学教授、弁護士、社会保険労務士、有識者5名で構成）と意見交換を行いました。このなかで特に、職員が議員からハラスメント行為を受けたときの相談窓口と第3者委員会について意見を交わしました。市の検討委員会からは、それぞれの課題について時間をかけ丁寧に議論を進めていきたいとの考えが示されました。今後、緊密に連携しながら指針の作成を目指します。

総務文教常任委員会企画 議員研修会

令和6年1月15日、講師に皆川博信氏を迎えて、ハラスメント防止研修を行いました。

今回の研修により、ハラスメントの正しい知識を学び、日頃の議員の行動がハラスメントに該当しないか再確認ができ、これからは市民や職員への接し方において実践していくことが大事であると感じました。

また、ハラスメント防止のためには組織的な防止対策をとることが必要であり、ハラスメントへの理解を深め、その上で傍観者にならないようにすること、人と人の繋がりや信頼関係の構築が大切です。



今回の研修内容

1. ハラスメントとは

意識的・無意識的に特定・不特定多数を問わず不快な想いをさせ、苦痛を与え、居心地の悪さを感じさせる行為のことを言います。

2. パワーハラスメントとは

- ① 優越的な関係を背景とした言動
- ② 業務上必要かつ相当な範囲を超えたもの
- ③ 労働者の就業環境が害されるもの

- ① ～ ③すべてを満たすもの

3. セクシュアルハラスメントとは

職場で労働者の意に反する性的な言動により、労働者が労働条件で不利益を受けたり、就業環境が害されること。

4. ハラスメントの未然防止

- ① シグナルを見逃さない
 - ② 話しやすい雰囲気作りを心がけること。
- ハラスメントが与える影響について学びました。



民生委員・児童委員との意見交換会

保健福祉常任委員会において、令和6年1月23日に民生委員児童委員活動の現状と課題について意見交換会を行いました。

民生委員児童委員の担い手不足確保が難しくなった理由として

- ①業務量が多く負担であり、活動が多岐にわたっている。
- ②民生委員の制度や活動内容が分かりにくく、住民の理解を得にくい。
- ③地域の高齢化と高齢者の就労率の上昇で、適任者を探しにくい。
- ④民生委員活動費が十分でない。

以上の内容説明を受けました。

長年の間に地域の状況は激変しているのに対し、制度そのものがそぐわなくなり限界に近づいているように思いました。小郡市は国の動向に注視しながら、改善に向けて積極的に動いていくべきです。



保健福祉常任委員会企画

議員研修会

令和6年2月19日に社会福祉法人こぐま福祉会より講師を迎え議員研修会を行いました。

発達が気になる

子の現状について

講師 林智香子氏

全国の児童生徒数は減少傾向だが障がい児は増加しており、小郡市も同様の傾向となっている。しかし市の施設や人員は不足している。また施設では一部、質の確保が必要である。

小郡市における

子どもに関する自治体との連携および現状と課題

講師 入部祥子氏

子ども支援は3本柱①発達支援②家族への支援③地域との連携支援が必要であり、①②は体制が整っているが③は連携に課題がある。早期の構築が必要である。

今回の研修では地域で子どもが育つためには、施設、人員、質を今以上に確保すること、児童への支援、さらに家族への支援が必要であること。そしてそれらの充実及び様々な課題解決のためには、地域との連携支援体制を早期につくる必要があることを学びました。



令和
5年度

福岡県中部十一市議会議長会議員研修会

主催 太宰府市議会

会場 九州国立博物館

日時 令和6年1月24日

中部十一市議会議長会議員研修会は、各市議会が持ち回りで開催され、今回は、令和発祥の都太宰府市で行われました。元号の令和は日本最古の歌集「万葉集」に収められた梅花の歌三十二首の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫ず」（しよしゅんのれいげつにして、きよくかぜやわらぎ、うめはきょうぜんのこをひらき、らんははいごのこうをくんず）の文言を引用したものです。

研修会は九州国立博物館館長富田淳氏が、演題「王羲之から菅原道真へ」で講演されました。王羲之は4世紀前半の中国を代表する書家で、特に「蘭亭序」などは後世の書家の軌範とされています。



中部十一市は「那珂川市・宗像市・古賀市・朝倉市・糸島市・福津市・大野城市・春日市・筑紫野市・太宰府市・小郡市」です。

三国小学校6年生 議場見学 2月15日・16日



三国小学校6年生（5クラス、158名）が議場の見学に訪れました。市議会からは議会の仕組みや議員の仕事について説明を行いました。
最初は緊張していた子どもたちでしたが、「小郡市はどんな街になったら嬉しいですか」と尋ねたところ、「子どもたちが遊べる場所」など沢山の意見やアイデアが出ました。
子どもたちの真つすぐな意見やアイデアを聞き、議員として更に身が引き締まる機会になりました。

（議会運営委員会）